

東京都立石神井高等学校 平成31年度 教科（ 家庭 ） 科目（ 家庭基礎 ） 年間授業計画

教 科： 家庭 科目： 家庭総合 単位数： 2単位

対象学年組： 第3学年A組～G組

教科担当者： (A組：轟)(B組：轟)(C組：轟)(D組：轟)(E組：轟)(F組：轟)(G組：轟)

使用教科書： (家庭基礎 自由・共生・創造 東京書籍)

使用教材： (なし)

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
4 月	オリエンテーション、生活設計	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科を学ぶということについて考える。 ○生涯発達について理解する。 ○青年期の発達課題知る。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1	
	第5章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の食生活を振り返り，食生活の変化や課題について理解する。 ○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り，自分や家族に当てはめる 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1	

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	第5章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期の良事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 ○日本の伝統的な食文化を知る。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2～3

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	第5章 食生活をつくる	○基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1
	第8章 経済生活を営む	○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2～3

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	1学期のまとめ		定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1

8 月	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し，組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し，被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2～ 3

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	第6章 衣生活をつくる	○布を使った生活の工夫を知る。	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価す -	3～ 4

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	第7章 住生活について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○住居の機能や間取りについて理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2～3
	第1章 自分らしい人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2～3

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	第1章 自分らしい人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り，現在の動きを把握する。 ○家事労働・職業労働について知り，ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1
	2 学期のまとめ		定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	第2章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2~4

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2 月	第3章 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴，個人差が大きいことを理解する。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び 高齢者を支える制度と課題を考える 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	2~3
	第4章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障制度の理念と内容を理解する。 ○多様な人々のニーズ，ノーマライゼーション，ユニバーサルデザインの理念を理解する。 	定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	1

	指導内容	家庭基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	学年末まとめ		定期考査の成績に集団討論・発表・ノート提出等の平常点を加え、総合的に評価する。	